

令和6年度経営評価（令和5年度事業）からの評価基準等の見直しについて

1 現評価基準及び評価方法

（評価基準）（小項目）

区分 評価 (点数)	①数値目標あり	②工事	③数値目標なし
	最新の数値	進捗率	取組の目的・効果
a (5)	目標値の 100%以上		十分に達成されている
b (4)	目標値の 80～99%		かなり達成されている
c (3)	目標値の 50～79%		おおよそ達成されている
d (2)	目標値の 30～49%		あまり達成されていない
e (1)	目標値の ～29%		達成されていない

（取組項目評価）

30の取組項目を構成する個々の取組（小項目）の実施内容・目標ごとの評価結果を
点数化（5～1）し、取組項目ごとに集約した平均値が、

4.6以上→A評価 3.6～4.5→B評価 2.6～3.5→C評価

1.6～2.5→D評価 1.5以下→E評価

（最終評価）

A	B	C	D	E
十分に達成 されている	かなり達成 されている	おおよそ達成 されている	あまり達成 されていない	達成されて いない

(過去5か年の経営評価における30の取組項目に対する最終評価)

評価	令和元年度 (平成30年度事業)	令和2年度 (令和元年度事業)	令和3年度 (令和2年度事業)	令和4年度 (令和3年度事業)	令和5年度 (令和4年度事業)
A	24	23	20	25	20
B	6	7	9	5	10
C	0	0	0	0	0
D	0	0	1	0	0
E	0	0	0	0	0

2 過去の本委員会でいただいた経営評価手法に関する御意見（別紙1参照）

- ・ 目標に対する達成状況の中で、特に優れている数値や、100%以上となったものは、色を付ける等、アピールしてもよいのではないかな。
- ・ 取組項目評価について、ほとんどがA評価であり、B評価の取組は工事の進捗の遅れとなっている。市民のために目指すべきところを考え、そこに向けての達成状況について評価すべきではないかな。
- ・ 数値目標なしの評価基準についてA評価の「十分に達成されている」とB評価の「かなり達成されている」が主観によるところがあるので整理してはどうか。
- ・ 30の取組項目評価とプランに掲げる数値目標との間で整合性が取れていないのではないかな。

3 評価基準等の見直しのポイント

- ① S評価を新設する。
- ② S評価の新設に伴い、評価基準（点数）を見直す。
- ③ 数値目標なしの評価基準の文言整理を行い、判定基準の目安を新設する。
- ④ プランに掲げる数値目標の評価基準を見直す。
- ⑤ S評価の新設に伴い、平均値の範囲を見直し、実施内容・目標（小項目）とプランに掲げる数値目標を一律に評価する。

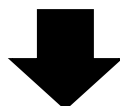
4 評価基準の見直し

(1) 見直しの方向性

- これまでのA評価の中には、目標どおり達成したものと、目標以上に達成したものが存在していたことから、目標以上（100%以上）に達成したものについては、アピールできるように評価基準の見直しを検討する。
- 数値目標なしの評価基準について、基準を再整理するとともに、市民サービスやコスト意識等を踏まえた評価となるように見直しを検討する。

(2) 小項目に関する評価基準の見直し案について
(現評価基準) (小項目)

区分 評価 (点数)	①数値目標あり	②工事	③数値目標なし
	最新の数値	進捗率	取組の目的・効果
a (5)	目標値の 100%以上		十分に達成されている
b (4)	目標値の 80～99%		かなり達成されている
c (3)	目標値の 50～79%		おおよそ達成されている
d (2)	目標値の 30～49%		あまり達成されていない
e (1)	目標値の ～29%		達成されていない



(新評価基準 (案))

区分 評価 (点数)	①数値目標あり	②工事	③数値目標なし
	最新の数値	進捗率	取組の目的・効果
s (6)	目標値の 105%以上		優れて達成されている
a (5)	目標値の 100～104%		達成されている
b (4)	目標値の 80～99%		かなり達成されている
c (3)	目標値の 50～79%		おおよそ達成されている
d (2)	目標値の 30～49%		あまり達成されていない
e (1)	目標値の ～29%		達成されていない

(小項目③数値目標なしに関する新評価基準 (案))

区分 評価	③数値目標なし	
	取組の達成状況	判定基準の目安
s	優れて達成されている	- 目標に明記した期日どおり達成し、明記した内容よりも高い水準もしくは効果的・効率的であった。 - コスト削減やお客さまサービスの向上等において目標以上の効果があった。
a	達成されている	適切に取り組み、業務遂行に支障がなく、目標に明記した期日、内容（水準）どおりに達成した。
b	かなり達成されている	目標に明記した期日や内容などの一部が不十分であったが、事業実施による効果が認められた。
c	おおよそ達成されている	目標に明記した期日や内容などの一部の取組が達成できなかったため、事業実施による効果がやや低かった。
d	あまり達成されていない	目標に明記した期日、内容などのほとんどの取組が達成できなかったため、事業実施の効果が低かった。
e	達成されていない	- 目標に明記した期日、内容ともに達成できず、事業実施の効果が認められなかった。 - 政策変更等により、実施が不可能となった。

(3) プランに掲げる数値目標の見直し案について

現評価基準		新評価基準 (案)	
評価 (点数)	目標値の達成状況	評価 (点数)	目標値の達成状況
		◎ (7.5)	目標以上達成
○ (5)	達成 (目標値以上)	○ (5)	達成 (目標値と同値)
× (4~1)	未達成 (目標値の 99%以下) ※割合は小項目を参考に	× (2.5)	未達成

5 評価方法の見直しについて（別紙2参照）

(1) 現状

- 前期プランの当初時点（令和元年度経営評価（平成30年度事業））では、プランに掲げる数値目標の達成状況を、30の取組項目の評価に反映する仕組みがなかったが、本委員会での御意見を踏まえ、プランに掲げる数値目標の達成状況の到達度を加味した最終評価を公表することとした。
- 数値目標が未達成となった場合は最終評価が下がる傾向になっており、今回新設する数値目標が目標以上達成となった場合は、その結果を適切に反映できる仕組みになっていない。

（最終評価パターン例）

取組項目評価（※1）	数値目標（※2）	最終評価
A	達成（A）	A
A	未達成（B）	B
B	達成（A）	B
B	未達成（B）	B

(2) 見直しの方向性

- 取組項目評価とプランに掲げる数値目標の関係性を整理し、評価に反映できるように検討する。

(3) 見直し案について

- 30の取組項目を構成する個々の取組（小項目）の評価と、プランに掲げる数値目標をそれぞれ評価し、プランに掲げる数値目標も含めて一律に30の取組項目ごとに集約・平均化する。
- 30の取組項目ごとに集約・平均化した平均値が、5.6以上の場合、「S評価」とする。また、A～E評価については、これまでと同様、それぞれ1.0幅とする。

現評価方法	
評価	平均値
A	4.6以上
B	3.6～4.5
C	2.6～3.5
D	1.6～2.5
E	1.5以下

新評価方法（案）	
評価	平均値
S	5.6以上
A	4.6～5.5
B	3.6～4.5
C	2.6～3.5
D	1.6～2.5
E	1.5以下

6 見直し案の検証結果

新評価基準及び評価方法を用いて令和4年度の実績をもとにシミュレーションしたところ、30の取組項目のうち、3項目がS評価となった。

最終評価	現評価方法	新評価方法
S		3
A	20	19
B	10	8
C	0	0
D	0	0
E	0	0

<S評価となった取組項目>

視点①方針②ー① 配水管等の適切な維持管理の推進

実施内容・目標（小項目）及びプランに掲げる数値目標	評価	取組項目評価
配水管の洗浄作業の実施	a (5)	S (5.8)
漏水調査の実施	a (5)	
有収率 91.2%【プランに掲げる数値目標】	◎ (7.5)	

視点①方針②ー② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化

実施内容・目標（小項目）及びプランに掲げる数値目標	評価	取組項目評価
老朽化した配水管の更新・耐震化の実施	a (5)	S (5.8)
低区御池連絡幹線配水管 布設工事実施	a (5)	
高区花園連絡幹線配水管 布設工事完了	a (5)	
低区五条連絡幹線配水管 布設工事完了	a (5)	
老朽配水管の解消率 47%【プランに掲げる数値目標】	◎ (7.5)	
主要管路の耐震適合性管の割合 58% 【プランに掲げる数値目標】	◎ (7.5)	

視点②方針②ー③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献

実施内容・目標（小項目）及びプランに掲げる数値目標	評価	取組項目評価
固形燃料及び消化ガスの有効活用	a (5)	S (5.6)
焼却灰等の有効利用	a (5)	
鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手 (R5年度事業開始・R9年度運転開始予定)	a (5)	
汚泥有効利用率 50%【プランに掲げる数値目標】	◎ (7.5)	

＜プランに掲げる数値目標との関連性＞ 数字は指標数（全２３指標）

数値目標	目標以上達成		目標値と同値		目標未達成	
最終評価	現評価	新評価	現評価	新評価	現評価	新評価
S		4				
A	6	2	6	8		1
B	1	1	2		8	7
C						
D						
E						

7 単年度目標とプラン目標に対する達成状況について

(1) 過去の本委員会でもいただいた経営評価手法に関する御意見

- ・ 経営評価の冊子で、単年度目標とプラン目標それぞれに対する達成度合いが分かりにくいので、後期プランでは分かりやすく示すべきである。

(2) 現状

- 経営評価は単年度の評価であるが、これまでプランの目標に対する評価のページを見開きで設け、当該年度時点のプランに対する達成状況を３０の取組項目ごとに示している。
- 複数年にまたがる工事に関する取組項目は、年度ごとにプラン目標に対する進捗度合を表すことができるが、単年度ごとに異なる取組を行い、総合的にプラン目標を達成するような取組項目については、通算してプラン目標に対する進捗を表しにくいという課題がある。

(3) 見直しの方向性

- 単年度の目標に対する評価を基本としつつ、プラン目標に対する評価についても、市民にわかりやすい形で伝わるよう工夫する。

(4) 見直し案について

来年度の経営評価冊子の見直しと併せて、現在検討しているところであり、今後、具体的な案をお示しする。

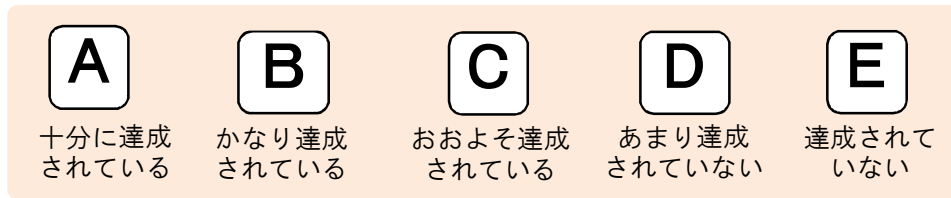
第 1 回経営審議委員会資料 2 - 3

令和 6 年度経営評価（令和 5 年度事業）からの評価基準等の見直しについて

これまでの経営審議委員会での 御意見等	令和 6 年度からの見直しの方向性
・目標に対する達成状況の中で、特に優れている数値や、100%以上となったものは、色を付ける等、アピールしてもよいのではないかな。	・これまでの A 評価の中には、目標どおり達成したものと、目標以上に達成したものが存在していたことから、目標以上（100%以上）に達成したものについては、アピールできるように評価基準の見直しを検討する。
・取組項目評価について、ほとんどが A 評価であり、B 評価の取組は工事の進捗の遅れとなっている。市民のために目指すべきところを考え、そこに向けての達成状況について評価すべきではないかな。	・取組項目評価の基準については上記の見直しも含めて検討する。 ・数値目標なしの評価基準について、市民サービスやコスト意識等を踏まえた評価となるように見直しを検討する。
・数値目標と取組項目評価の間で整合性が取れていないのではないかな。	・数値目標と取組項目評価の関係性を整理し、評価基準に反映できるように検討する。
・単年度目標とプラン目標それぞれに対する達成度合が分かりにくいので、後期 5 箇年では分かりやすく示すべきである。	・単年度の目標に対する評価を基本としつつ、プラン目標に対する評価についても、市民にわかりやすい形で伝えるよう工夫する。

現評価方法

【最終評価】



<取組項目評価>

30の取組項目を構成する個々の取組（小項目）の実施内容・目標ごとの評価結果を点数化（5～1）し、取組項目ごとに集約した平均値が、
 4.6以上→A評価 3.6～4.5→B評価 2.6～3.5→C評価
 1.6～2.5→D評価 1.5以下→E評価

<プランに掲げる数値目標>

【評価基準】

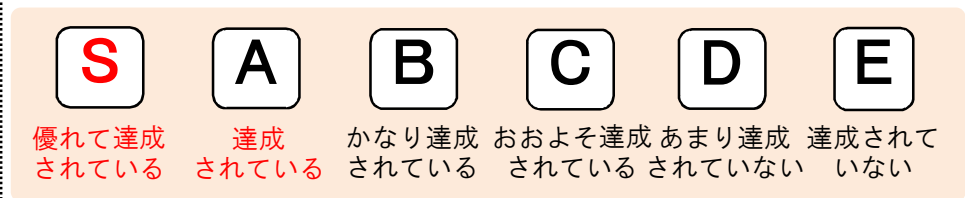
<実施内容・目標（小項目）>

a	5	目標値の100%以上	または十分に達成されている
b	4	目標値の80%～99%	またはかなり達成されている
c	3	目標値の50%～79%	またはおおよそ達成されている
d	2	目標値の30%～49%	またはあまり達成されていない
e	1	目標値の29%以下	または達成されていない

数値目標があるものや工事に係るものは進捗率に応じて、数値目標のないものはその達成度合いに応じて5段階の評価を行い、30の取組項目ごとに集約・平均化する。

新評価方法(案)

【最終評価】



<取組項目評価>

30の取組項目を構成する個々の取組（小項目）の実施内容・目標ごとの評価結果とプランに掲げる数値目標の評価結果を点数化（6～1）し、取組項目ごとに集約した平均値が、
 5.6以上→S評価 4.6～5.5→A評価 3.6～4.5→B評価
 2.6～3.5→C評価 1.6～2.5→D評価 1.5以下→E評価

【評価基準】

<実施内容・目標（小項目）>

s	6	目標値の105%以上	または優れて達成されている
a	5	目標値の100%～104%	または達成されている
b	4	目標値の80%～99%	またはかなり達成されている
c	3	目標値の50%～79%	またはおおよそ達成されていない
d	2	目標値の30%～49%	またはあまり達成されていない
e	1	目標値の29%以下	または達成されていない



<プランに掲げる数値目標>

◎	7.5	目標以上達成
○	5	達成（目標値と同値）
×	2.5	未達成

プランに掲げる数値目標も含めて30の取組項目ごとに集約・平均化する。

プランに掲げる数値目標は達成状況に応じて、3段階の評価を行う。

数値目標があるものや工事に係るものは進捗率に応じて、数値目標のないものはその達成度合いに応じて6段階の評価を行う。

静岡市上下水道局

評価区分	数値目標があるもの	数値目標がないもの
S	目標を上回る (105%以上)	・ 目標以上の成果があがっている。
a	目標どおり (90%以上 105%未満)	・ 目的達成に向けて、計画どおり成果が出ている。 ・ 実績や事業費に見合った十分な成果が出ている。
b	目標を下回る (70%以上 90%未満)	・ 目的達成に向けて、ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている。 ・ 実績や事業費に比較して成果がやや低い。
c	目標を大きく下回る (70%未満)	・ 目的達成に向けて、成果が出ていない。 ・ 事業実施の効果が認められない。 ・ 今後も成果が見込めず、事業そのものの見直しが必要。
—	実施せず	・ 実施する必要が無くなった。 ・ 政策変更等により、実施が不可能となった。

堺市上下水道局

評価区分	数値目標に対する達成度
S (目標を超えて達成した)	100%を超える
a (目標を達成した)	95%以上 100%以下
b (目標を概ね達成した)	80%以上 95%未満
c (目標を達成しなかった)	80%未満